

看取りを通して学んだこと

特別養護老人ホーム あづきもち
ユニットリーダー 山田光一
相談員 松井光一

施設紹介

- ▶ 特別養護老人ホーム あづきもち
- ▶ 浜松市中区小豆餅
- ▶ 平成25年4月開設
- ▶ 入居70床
- ▶ 併設ショート10床
- ▶ 個室ユニット型



介護の仕事において避けては通れない
〈看取り〉

看取りを終えると・・・

- ・何か他に出来ることがあったのではないかと・・・
- ・元気なうちに外出できたのではないかと・・・
- ・これで本当に良かったのか・・・



なんとも言いえない、やりきれない気持ちが残っていました

A様関わり看取りを終えた後・・・

「今後も今回のような看取りがしたい」

入居者情報



- ▶ A様 89歳 男性
- ▶ 介護度3
- ▶ 日常生活自立度J2
- ▶ 認知度Ⅲb
- ▶ アルツハイマー型認知症
- ▶ 言葉によるコミュニケーションはできない

若い頃は小型船の設計を行い、本人もヨットレースを楽しんでいた。H19年頃から物忘れがあり、H21年からデイサービス等利用するも次第に認知症が悪化し言葉も出てこないようになる。努力家でありリハビリの為に始めた花の模写や絵は、先生が驚くほど熱心に取り組まれた。奥様が自宅で介護をされていたが、難聴もあり介護に対して拒否も見られるようになった為、H25年6月当施設へ入居となる。入居後は週に一度は必ず面会があり外出もしていた。



入居者情報



- ▶ 平成28年2月 発熱のため受診し検査入院
検査の結果 肺癌が確認、左鎖骨にも転移し腫瘍
D r よりご家族に余命数ヶ月との宣告
- ▶ ご家族が当施設での看取りを希望
- ▶ 平成28年3月 退院 受け入れ
- ▶ 平成28年5月 痰がらみやむせ込みあり、食事量の低下
- ▶ 平成28年8月25日 食止め ターミナルへ移行
- ▶ 平成28年9月3日 ご逝去

①余命を受けての受け入れであった

- 職員間での共通認識があった
- 肺癌の診断を受けたことで
 - ・呼吸器への転移や急変のリスク
 - ・腫瘍の肥大による出血のリスク



「今のうちに出来ることをしたい」
「出来なくなってしまう前に・・・」



イベントの企画

母の日 ちらし寿司作り



父の日 外で餃子とビール



②デジタルフォトフレームの設置

- ▶ 余命を宣告されていたこともあり多くの親族の方の面会があった
- ▶ 施設での生活を知ってもらいたい
- ▶ デジタルフォトフレームの設置
- ▶ 面会にきた方に喜んで頂けた
- ▶ コミュニケーションを取る時の話題にも繋がった

スタッフにも

- ▶ ケアで関わる時に写真を見ることにより、A様の入居後からの様子を振り返る機会となり、「いろいろなことができた」「このときは楽しんでもらえてよかった」と肯定的な振り返りに繋がったのではないかと



③家族との連携ができた

- ▶ 面談の実施
 - ・退院時、状態低下時、ターミナル移行時に実施
(家族、D r、N s、栄養士、相談員、ユニットスタッフ)
- ▶ 家族が食事介助への参加
 - ・状態低下後は毎日のように一日一回は、ご家族が食事介助へ参加
 - ・ご家族の気持ちやスタッフとの情報共有が計れた



本人の状態実際に確認し、死期が近いのではないかと涙する場面も
あった



ユニットからは、ご家族の居ない時の様子で笑顔が見られたことや少しでも食べれたことなどの明るい話題を多く伝えていくよう取り組む

<次回もA様のような看取りをするための取り組み>

- ▶ 日々のケアを大切に
 - ・行事の計画 楽しい時間を提供する
- ▶ ご家族との関係を築く
 - ・面会時のコミュニケーション（家族の思いを聞く、情報の共有を行う）
 - ・職員と一緒にケアへ参加していただく（企画や行事へ参加）
- ▶ ご家族、職員を含めたケアとなるように取り組む
 - ・できるだけ不安を取り除けるように努める（状態の説明、ケア方針の統一）
 - ・ターミナルへ入る前、ターミナルへ入った後の取り組みによって最後の瞬間が訪れた時の家族、職員の気持ちが変わってくる

年間行事スケジュール

- 4月 花見イベント
- 5月 母の日 カーネーションプレゼント
- 6月 父の日 ビール祭り
- 7月 福笑い
- 8月 夏祭り 花火大会
- 9月 敬老会
- 10月 餅つき
- 11月 紅葉フェスティバル
- 12月 クリスマス会
- 1月 新年会
- 2月 節分 豆まき
- 3月 ひな祭り

死後のカンファレンスにて

死後のカンファレンス実施概要

1. 看取りを完了したご家族様へお電話にてお電話し、お電話にてお話しさせていただきます。

2. 看取りを完了したご家族様へお電話にてお話しさせていただきます。

3. 看取りを完了したご家族様へお電話にてお話しさせていただきます。

不安を感じた点、迷った点

- ・むせ込みがみられた時にNSに連絡すべきか迷う場面があった。
- ・水分を取っていただく重要性は理解していたが拒否が見られた時に声掛けするのが辛かった。
- ・夜間時、急変時の対応に不安があった。

看取りを終えて評価できる点

- ・企画への参加ができた。
- ・家族と情報共有しながら穏かに最後を迎えることができた。
- ・デジタルフォトフレームを設置し家族に喜んでくれた。
- ・病室を作らずきれいな身体でご家族にお返しできた。
- ・各職種間連携して親身になって話し合い協力できた。
- ・連携が取れていたため不安が和らいだ。

看取りを終えての感想

- ・食べられなくなる前にあらかじめ具体策を考えることができた
- ・職員が気にかけて声掛けで来た。ご家族も含め穏かに過ごす事ができた。
- ・各職員が親身になって試行錯誤しながらケアが行えた。
- ・看取りに入る前も含め毎日のケアが大切だと改めて学んだ。

まとめ

- ▶ 多くのユニットスタッフが「今回のような看取りをしたい」と思えるような経験をさせて頂いた。

ご家族と共に寄り添うことができた看取りであった

このような貴重な経験をさせて頂いたA様、ご家族の皆様へ感謝し、同じような気持ちで今後もお見送りができるよう日々のケアに取り組んで行きたいと思っております。

看取りを終えて・・・

スタッフの皆様へ Thank You

今で大変お世話になり本当にありがとうございました。
 皆様のおかげで最後の時を小室館を
 過すことができ、今とても感謝しています。
 余命を宣告された時は、皆様もとても
 負担をおかけしました。ご迷惑をおかけし
 皆様のお世話をいただいた介護士さん、
 して下さった大変さや思いやり、
 心ばかりですがお返しさせていただきます。



ご清聴ありがとうございました